

繁殖期調査

今年の春は野鳥たちの子育てを観察しよう

越冬期調査に続いて、繁殖期調査も「定点」での調査を行います。具体的には自治体ごとに1か所以上の調査地を設定し、同一場所で繁殖期〔5・6月〕に数年間調査を行い、その地域の鳥相を明らかにするという試みです。そのデータはまず自治体ごとの鳥類目録をつくる際の基礎資料となる予定です。

越冬期調査は、コロナ禍にも関わらず、70か所以上の調査地で実施することができました。繁殖期調査は、越冬期と同じ場所をベースとして2回の調査を行い、より正確な情報を得られるようにと考えています。新規の調査地も増やしていきますので、自分が関係する区市町村にどんな鳥がすんでいるか、調査に興味のある方は、下記にご連絡ください。調査方法など詳しい内容についてお知らせします。

なお、繁殖時期の早いカワガラス・モズ・エナガなどのようすも気をつけて、別途その情報をお寄せください。

【問い合わせ・連絡先：E-mail：office@yacho-tokyo.org 研究部・繁殖調査係】

こんなところにムクドリ「冬ねぐら」が・池袋西口公園のバス停前
・同じ場所でウグイスもねぐらをとっていた！

駅前などの繁華な場所に集団でねぐらをとるムクドリの群れは、鳴声や糞、抜け羽などで住民に嫌われていますが、それは初夏から晩秋にかけてできる「夏ねぐら」。初冬から春先には「冬ねぐら」に移るといわれています。冬は郊外の雑木林や屋敷林、河川敷の林などでねぐらをとっていることが知られていますが、昨年12月1日に、思わぬ場所で「冬ねぐら」が発見されました。夕方、池袋西口を歩いていたら、ビルの屋上のTVアンテナに数十羽のムクドリが止まっていたとの情報で、翌日調べたところ、東京芸術劇場が建つ西口公園の都バスのバス停前のクスノキから鳴声が聞こえるのを確認しました。【写真】



一時的なことか、恒常的なことかを知るため、12月中旬・下旬、1月中旬・下旬、2月上旬・中旬に出向いて調べたところ、いつも200羽くらいのムクドリの群れがねぐらをとっていることがわかりました。こんな街なかで「冬ねぐら」があるとは想像もしていませんでした。このねぐらについてご存知の方は状況をお教えてください。

ところで、この調査にはおまけがありました。ムクドリのねぐら入りを待っていたら、クスノキの下や近くで、何度も地鳴きや姿を確認しました。どうやらウグイスが2羽ねぐらをとっているようです。これも予想外のことでした。

(川内 博)